

2025年3月期決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>

2025年6月25日
株式会社トランスジェニックグループ

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

決算発表の状況 及び 今後の予定

- 2025年6月16日：2025年3月期決算短信を公表
↓
(今後の予定)
↓
- 2025年6月30日：定時株主総会開催
- 2025年6月30日：有価証券報告書提出
- 2025年7月 下旬：定時株主総会継続会の開催

2025年3月期決算 及び 2026年3月期の見通し

- 2025年3月期は、創薬支援事業の減収により連結営業損失を計上。
- 2026年3月期は、創薬支援事業の売上増や利益率の改善により利益の大幅改善、連結営業利益1.5億を見込む。

①試験データ不正の 再発防止策 ②市場区分変更申請 の取り下げ

- 2025年6月20日：再発防止策を公表。
 - ・試験報告書確認過程の仕組みを再構築
 - ・試験に関与する職員の人物像の把握・検証及びコンプライアンス意識の啓発
- 2025年6月20日：市場区分変更申請の取り下げ

I . 2025年3月期連結決算概要	. . . 3
II . 創薬支援事業の状況	. . . 6
III . 投資・コンサルティング事業の状況	. . . 11
IV . 2026年3月期連結業績予想	. . . 14
V . その他報告事項	. . . 17



I . 2025年3月期連結決算概要

●創薬支援事業

中期発がん試験などの高付加価値・差別化試験及び臨床試験の受注は増加したが、来期完了予定の長期試験が多く、前期比で減収減益となった。

●投資・コンサルティング事業

新規連結子会社の売上貢献、新規先の開拓や価格転嫁が功を奏し、前期比で増収増益となった。

売上高

13,005百万円

前期比△ 78百万円 (0.6 %減)

創薬支援事業 △ 422百万円 (18.2 %減)

投資・コンサルティング事業 + 343百万円 (3.2 %増)

営業利益

△ 259百万円

前期比△ 348百万円 (- %)

創薬支援事業 △ 349百万円 (- %)

投資・コンサルティング事業 + 8百万円 (2.1 %増)

本社・連結調整 △ 8百万円 (- %)

経常利益

△ 319百万円

前期比△ 428百万円 (-%)

親会社株主に帰属する 純利益

△ 1,089百万円

前期比△ 1,093百万円 (-%)

2025年3月期連結決算：連結キャッシュ・フロー

単位：百万円		2024年3月期 (前期)	2025年3月期 (当期)	補足説明
営業 キャッ シュ・ フロー	税引前利益	43	△675	
	営業債権債務等*の増減額	△529	355	*売上債権・棚卸資産・仕入債務・前受金・前渡金
	法人税等の支払・還付（純額）	81	36	
	その他	13	377	（当期）減損損失228
		△392	94	
投資 キャッ シュ・ フロー	有形固定資産の取得	△265	△175	
	子会社株式の取得	-	△80	（当期）東北新和化学株式会社
	その他	△15	△32	
		△280	△287	
フリー・キャッシュ・フロー		△673	△193	
財務 キャッ シュ・ フロー	有利子負債の増減額	△180	323	
	配当金の支払額	△83	△49	
	その他	△78	△8	
		△342	265	
現金及び現金同等物に係る換算差額		22	4	
現金及び現金同等物の増減額		△993	75	
現金及び現金同等物期首残高		3,459	2,466	
現金及び現金同等物期末残高		2,466	2,541	

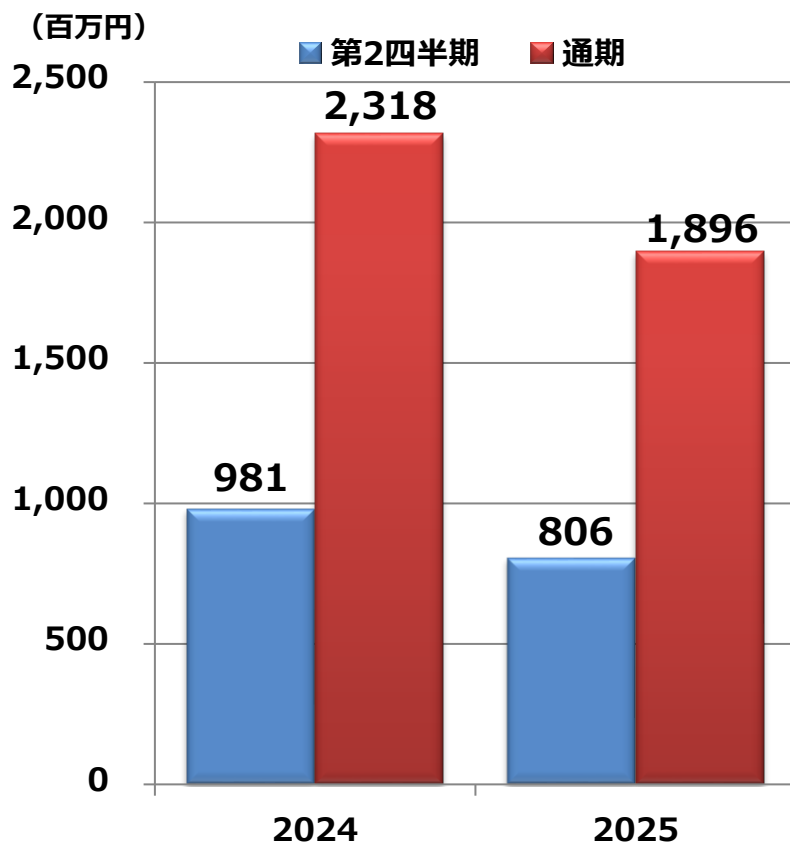


Ⅱ．創薬支援事業の状況

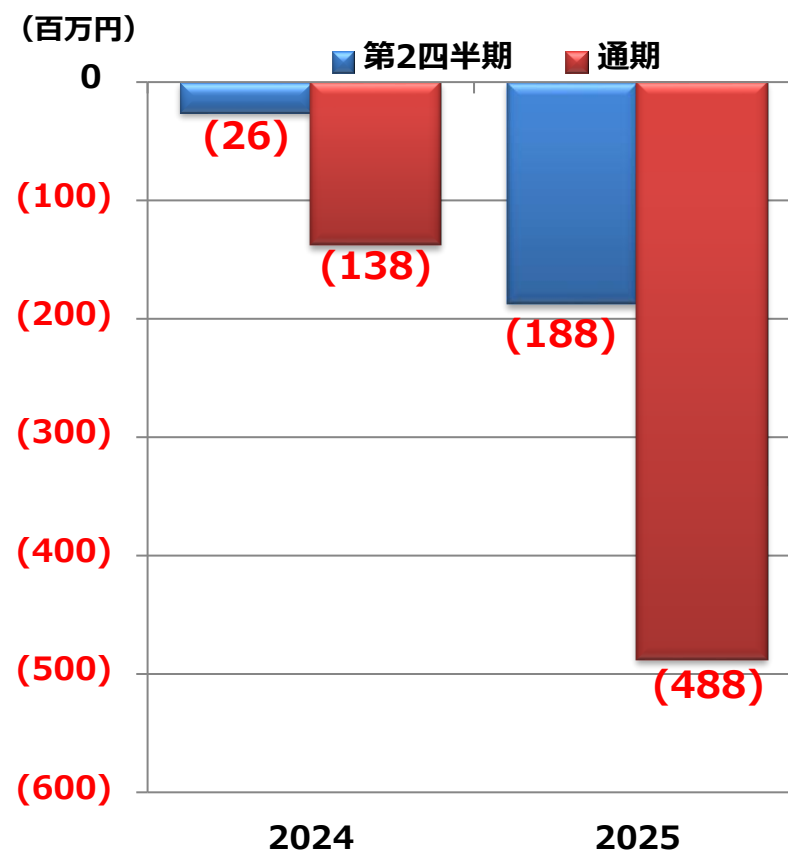
創薬支援事業：業績概要(1/2)

売上高は、非臨床試験における新規サービスとなる中期発がん性試験や臨床試験において受注は増加したものの、来期以降に完了予定となるものが多く、前期比で減収。強みであるTGR試験の受注額が想定を下回る中、ジェノミクス事業の人員配置の見直しや恵庭研究所における磐田研究所への集約作業コストが来上半期まで発生することが見込まれることから、事業運営の合理化費用の計上等により、前期比で営業損失額も拡大した。

売上高



営業利益



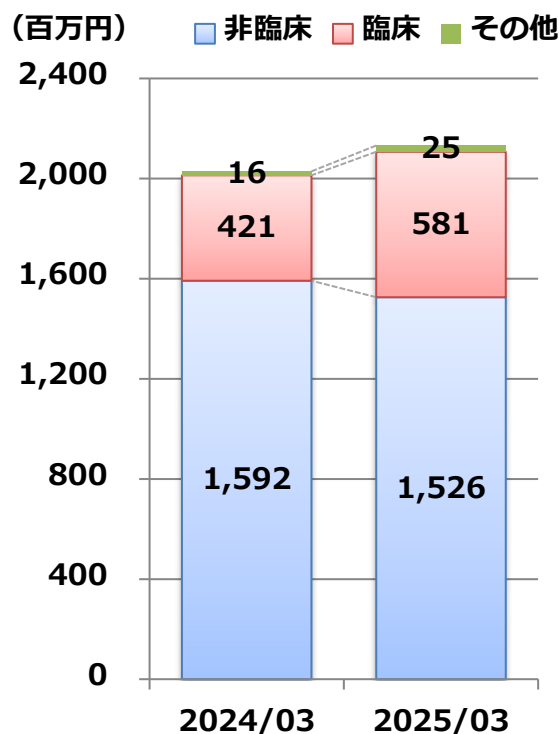
創薬支援事業：業績概要(2/2)

- **非臨床試験**：当期受注については、前年同期比でTGR試験が大幅に減少したものの、中期発がん性試験の新規受注等でカバーした。しかし、大部分が来期以降に納品となるため、売上貢献は限定的となり減収となった。
- **臨床試験**：当期受注は、前期比で大幅に増加したが、大部分が来期以降納品であり、売上貢献は限定的となり減収となった。

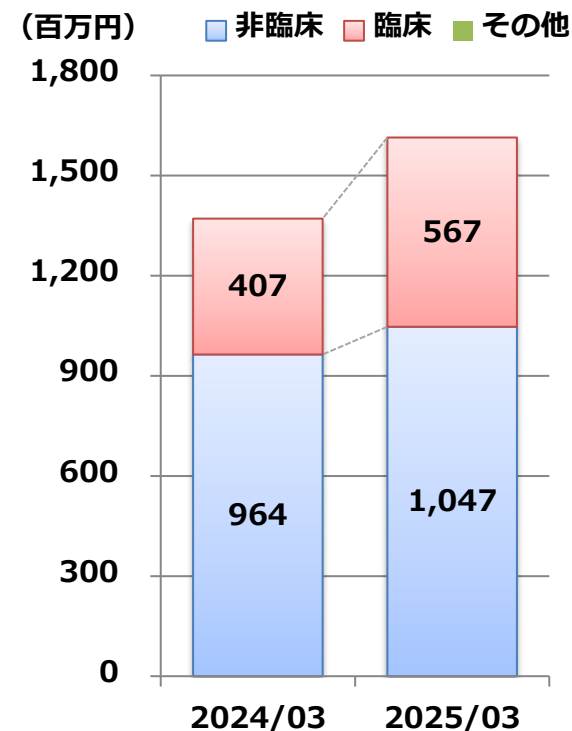
売上高



受注高



繰越受注残



創薬支援事業（トランスジェニック社）の業績悪化要因

業績悪化要因	影響	対処	効果
(1)基礎研究分野に対する 国家予算の縮小	ジェノミクス事業（遺伝子 改変マウス事業）の受託作 製規模は、この2年間で半 分以下に縮小した	市場規模に合致した体制に変 更。非臨床事業部と連携し販 促強化	損益改善
(2)物質取扱に関する規制 変更	ニトロソアミンの取扱緩和 により、TGR試験の受注が 減少した	一時的受注減の影響はあった が、現在、受注は堅調に推移 している	損益改善
(3)非臨床事業集約の遅延	事業閉鎖以降も非臨床事業 に係る設備費及び人件費が 継続し損益を圧迫	2025年9月末迄に完了予定	損益改善
(4)期首繰越受注残の減少 及び長期試験受注の増加	期首繰越受注残が例年に比 べ少なかったことと、当期 の非臨床、臨床事業の受注 は堅調に推移したものの、 翌期以降納期が多く売上貢 献が限定的となった	期末繰越受注残は期首と比較 して約2.5億円多く繰越して おり、新年度売上に貢献する	損益改善

トランスジェニック社において「rasH2マウスを用いた短期発がん性試験」の受託開始 及び「中期発がん性試験」の受託拡張

項目	目的	利点	受託サービス
rasH2※ ¹ マウスを用いた短期発がん性試験の受託開始	発がん性関連領域における需要が高い技術・サービスを他社に先んじて導入し、迅速に市場優位性の確立を目指す。	ICH※²ガイドラインにおいて、従来の長期がん原性試験（2年間）の代替法試験として推奨されている。 ・ 動物数の削減（3Rの理念, Reduction） ・ 試験期間の短縮 ・ 被験物質量の削減 ・ 試験費用の削減	・ rasH2を用いる短期発がん性試験（経口投与） ・ 試験期間は、予備試験を含めて26週間＜今後の予定＞ ・ 経口投与以外の投与ルートでの受託試験を展開予定。 ※³
中期発がん性試験の受託拡張			「中期皮膚発がん性試験」 ※⁴ 「中期肝発がん性試験」 「ラットを用いた中期大腸発がん性試験」新規受託開始 ・ 予備試験を含めて1年～1年半

※¹ rasH2マウスは、ヒト由来のがん関連遺伝子であるHRAS（c-Ha-ras）を組み込んだトランスジェニックマウスです。発がん性の有無を評価可能で、医薬品や化学物質の発がん性試験に広く使われています。

※² ICH：医薬品規制調和国際会議、International Council for Harmonisation of Technical Requirements for Pharmaceuticals for Human Use

※³ **研究成果について、2025年7月開催の「第52回日本毒学会学術年会」において発表予定。**

※⁴ **中期皮膚発がん性試験は、経皮投与局所の発がん性試験の1種として、申請資料に使用されています。**

トランスジェニック社の強みである遺伝子改変動物を用いた「短・中期発がん性試験」の実施も展開予定であり、発がん性関連領域において他社にはない強みのある研究機関となることを目指す。

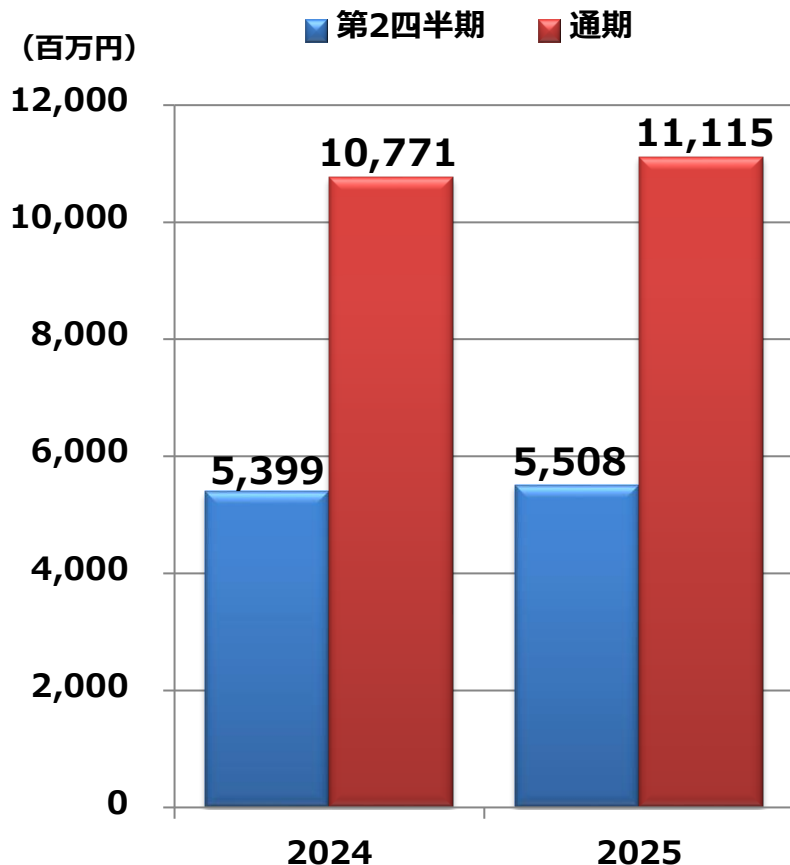
A large, light blue circular arc with two orange circles inside, positioned behind the main title text.

Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

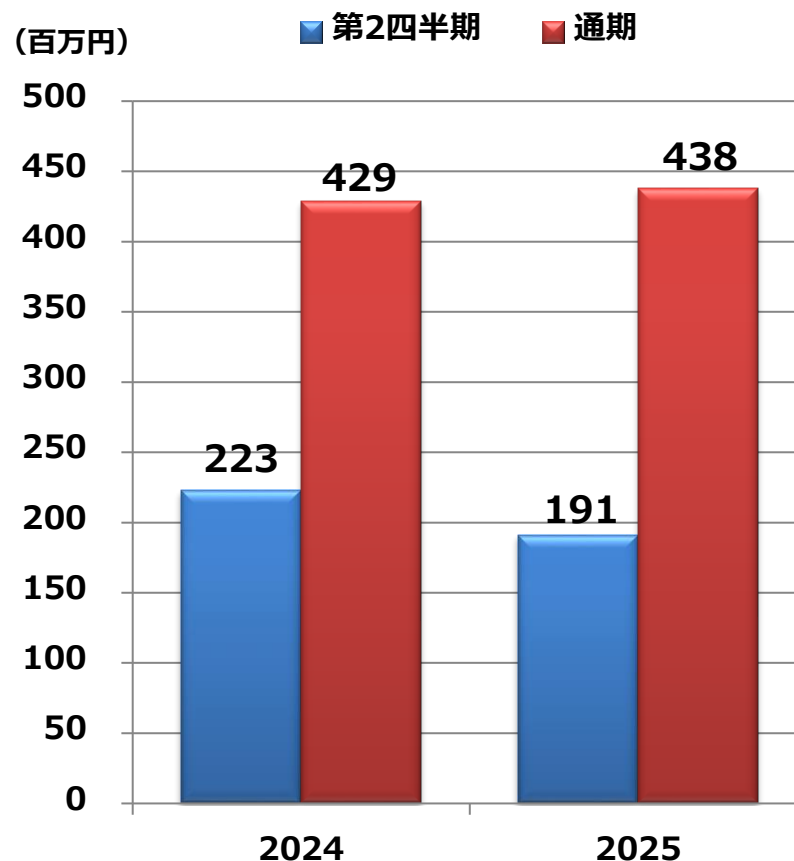
投資・コンサルティング事業：業績概要(1/2)

物価が上昇傾向である中、消費者の購買意欲減退の影響でEコマースによる小売販売は苦戦したが、2024年4月に連結子会社化した東北新和化学(株)の売上及び利益貢献があったほか、新規先の開拓や価格転嫁を進めたため前年同期比で増収増益となった。

売上高

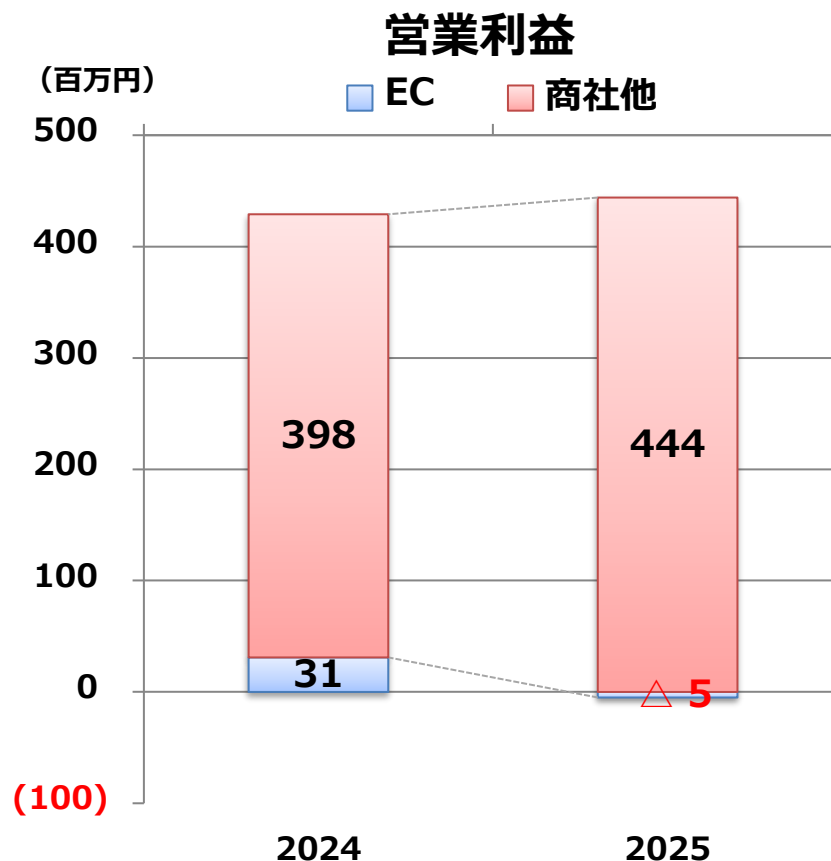
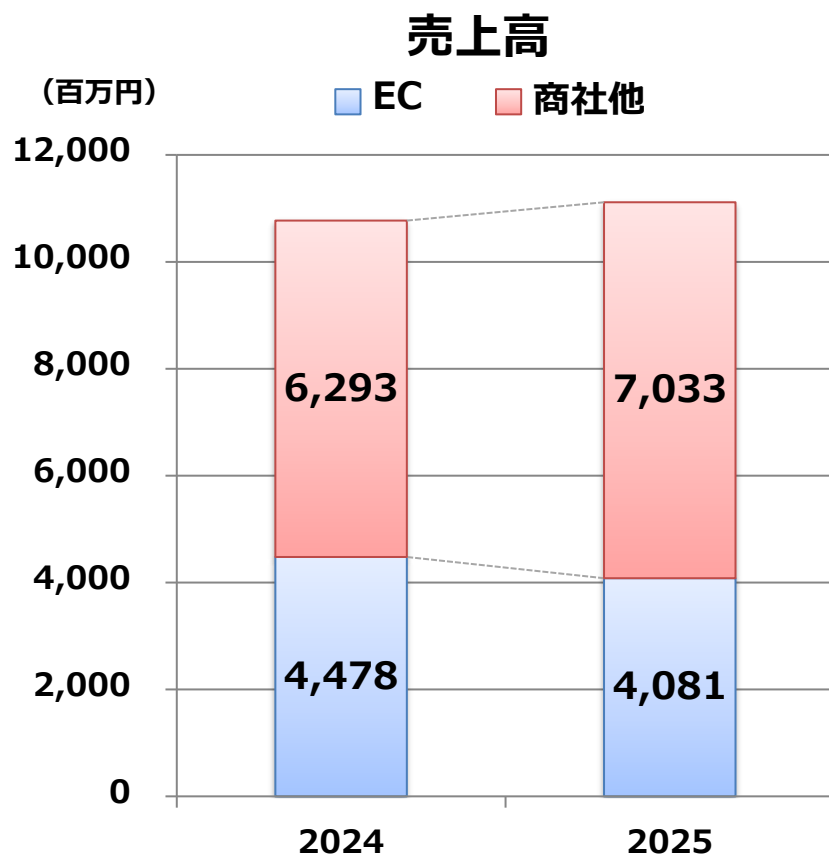


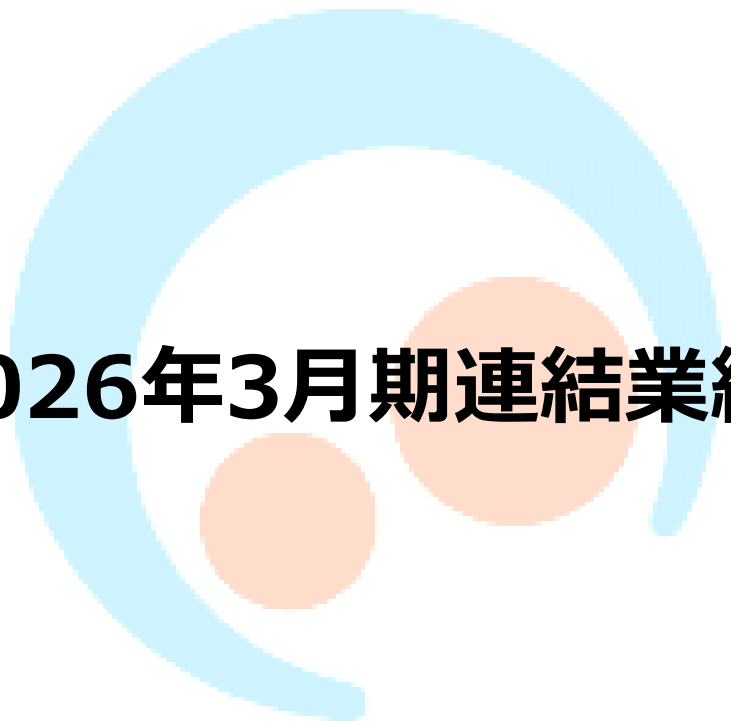
営業利益



投資・コンサルティング事業：業績概要(2/2)

- **E C**：売上高については、継続する物価高及び消費停滞の影響により減収となった。
営業損益については、減収及び在庫評価・処分損等の影響により減益となった。
- **商社他**：連結子会社化した東北新和化学(株)の売上及び利益貢献があったほか、新規先の開拓や価格転嫁を進めたことにより増収・増益となった。





IV. 2026年3月期連結業績予想

2026年3月期 連結業績予想(1/2)

創薬支援事業においては、更なる経営資源の集約及び事業運営の合理化を通じて、競争力及び収益力の向上を図る。投資・コンサルティング事業においては、既投資先の収益力の向上に努め、リスク分散に配慮しながら投資先の発掘を行い、今後も積極的な投資を継続し、両事業による収益基盤の拡大を図る。

単位：百万円	2026年3月期 (通期予想)	2025年3月期 (実績)	増 減	
			百万円	(%)
売上高	13,500	13,005	494	4.0
創薬支援事業	2,200	1,896	303	15.2
投資・コンサルティング事業	11,300	11,115	184	1.8
本社・連結調整	-	△6	6	-
営業費用	13,350	13,264	85	0.6
創薬支援事業	2,290	2,384	△94	△4.0
投資・コンサルティング事業	10,840	10,676	163	1.5
本社・連結調整	220	203	16	8.1
営業利益	150	△259	409	-
創薬支援事業	△90	△488	398	-
投資・コンサルティング事業	460	438	21	4.9
本社・連結調整	△220	△209	10	-

2026年3月期 連結業績予想(2/2)

2025年3月期の連結営業赤字の原因となった創薬支援事業は、2026年3月期の通期予想において、下記のとおり改善を見込む。

単位：百万円	2026年3月期 (通期予想)	2025年3月期 (実績)	増 減	
			百万円	(%)
創薬支援事業 売上高	2,200	1,896	303	15.2
創薬支援事業 営業費用	2,290	2,384	△94	△4.0
創薬支援事業 営業利益	△90	△488	398	-

- 期首繰越受注残の前期比大幅増加と当期の受注予測をもとに、創薬支援事業売上高は前期実績比で15.2%増の22億円を見込む。
- 受注試験の利益率改善及び人員配置等の合理化効果、売上の伸びによる固定費の回収により、創薬支援事業における営業費用は4.0%減少し、営業利益は△0.9億円（前期比4億円の改善）を見込む。



V. その他報告事項

その他報告事項：不正行為の再発防止策について

当社連結子会社の（株）トランスジェニック磐田研究所にて、2022年3月期から2024年3月期にかけて実施・報告された受託試験の一部（分析試験）において、社内調査の結果、試験データに係る不正が行われたことが判明いたしました。当社は、客観的な観点から、事実確認の調査及び検証を行うために、当社と利害関係のない外部の専門家（西村あさひ法律事務所・外国法共同事業）による調査及び検証作業を進め、6月19日に調査報告書を受領いたしました。当社はこのたび、当該調査報告書の指摘に基づき、具体的な再発防止策について、6月20日開催の当社取締役会において決議し、取組みを開始しております。

本調査報告書による原因分析及び再発防止策の提言を受け、当社が策定した再発防止策の概要は、以下のとおりです。

<試験報告書の確認過程の仕組みの整備>

（１）SOP（Standard Operating Procedure：標準作業手順書）の改訂

分析試験室におけるすべての試験結果の報告書について、分析試験室内で試験結果の整合性(電子データと紙媒体の整合性)を確認する旨をSOPに記載するよう、6月中に改定予定です。

（２）DI（Data Integrity：データの整合性）対応

分析試験室における正確で信頼できるデータの管理対応の一環として、分析機器内のデータの改ざん等を防止する、より堅牢なシステムを導入いたします。

<試験に関与する職員の人物像の把握・検証及びコンプライアンス意識の啓発>

（１）試験に関与する職員の人物像の把握及び検証

職員評価基準に「誠実性」「真摯性」「信頼性」の評価軸を含めることによって、業務を適切に監視監督する仕組みを設けます。

（２）教育によるコンプライアンス意識の啓発

職員に対するコンプライアンス教育を改めて徹底するとともに、試験担当者にプロフェッショナルとしての責任感や自負・使命感を醸成する取組みを継続的に実施してまいります。

本件に関する業務の局所的な対処に留まることなく、本質的な再発防止の取組みを着実に実施し、株主の皆様をはじめとしたステークホルダーの皆様からの信頼回復に努めてまいります。

1. 市場区分変更申請の取下げの理由

当社は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指すステージがより適切であると判断し、2024年3月期を直前期とするスタンダード市場への市場区分変更の申請を2024年12月26日に行っていました。

しかしながら、子会社の一部の職員による試験データに係る不正が判明し、外部の専門家(西村あさひ法律事務所・外国法共同事業)による調査及び検証作業を進めてまいりました。また、本事業に関する調査内容の検証、決算手続きや会計監査人による監査手続きにおいて相応の時間を要し、2025年3月期の決算短信の開示が期末後50日を超えることとなりました。

このため、2025年6月末の本申請に対する承認期限※までに株式会社東京証券取引所による承認を受けることが難しいと判断したこと、再発防止策の実行を速やかに行い、信頼の回復に努めることが最優先であると判断し、本申請を一旦取り下げることと決意いたしました。

※2025年3月期有価証券報告書の提出によって本申請の基準期(直前期)が2024年3月期から2025年3月期に変更となり、市場区分変更審査に係る形式要件を満たすことができなくなるため、当該時点が本申請の実質的な期限となります。

2. 上場維持基準の適合状況について

当社の2025年3月末時点におけるグロース市場の上場維持基準のうち、時価総額については当該基準を満たしておらず、不適合の状態となっております。当社は、今回不適合となった時価総額基準を充たすために、上場維持基準への適合に向けた計画を近日公表し、上場維持基準への適合に向けた各種取り組みを進めてまいります。



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>